

情報工学科 1年
塩谷 丈史

Windows 7を使ってみた

情報工学科ではMSDN AAという、教育関係者向けのコンテンツがある。ここではMicrosoft社の製品の一部を無償で使用できる。9月1日より、待望の次期Windows-OSであるWindows 7 Professionalがコンテンツに追加されていた。そこで早速使ってみることにした。

インストール速し！

とりあえずインストールしてみると、Vista同様にウィンドウが出現し、GUIでのインストールとなった。

インストールにかかった時間は1時間程度で、XPでは2時間～3時間ほど費やしていた気がするので驚きだった。インストール中には2～3回ほど再起動が必要だったが、ほとんど自動なので、プロダクトキー入力まではほぼ放置だった。

らくちンドライバ

インストール後初対面のデスクトップ。ここでふと気づく、「画面解像度が最適化されている・・・？LANも認識されている?!」。そう、ドライバがすでに読み込まれていたのだった。これには驚いた。Vistaのときでさえ、インストール直後はドライバCDからせこせこことドライバを入れていたというのに、なんて手間要らず！Windows Update経由で汎用ドライバっぽいことから、専用のドライバもインストールしてくれた。これでOSインストール後のイライラの原因がひとつ減ったというわけだ。

メモリは・・・

インストール直後のメモリ使用は400MBほど。XPの300MBに比べれば大きいけど、Vistaの600MBと比べればかなり少ない。ネットブックでの動作を目指して作られたというのだから、がんばったのだろう。ちなみに、OpenOffice.orgとIEを開いた状態でメモリ使用は800MBほどに収まっている。なるほど、ネットブックはメモリ1GB搭載が多いから、文章処理はちょうど良いといったところか。

ところで、ゲームは？

肝心なところ。X680x0同好会はゲームを作るところである。私自身ゲーマーである。Windows7でゲームってどうなの?! というのはかなり重要である。お話しよう。

さすがにベースがVistaであるので、あまり多くのことは期待できない。と、思いきや、Vistaで動作不良を起こしていた3D系の某MMORPGがXPと同様、スムーズに動くではないか。しかも、XPでは不具合のあったシェーダー処理の部分が正常に戻っていた。さらに別の2D系某MMORPGは少しカーソルが点滅するものの軽快に動いていたのはさらに印象的だった。

だからといって安心はできない。ほかに数年前の某FPSを入れてみたのだが、起動はするものの、ロード時にゲームが強制終了してしまった。残念。

互換性を持たせるためにWindows7から搭載したXP Modeという機能がある。しかしこれは、Virtual PCによって起動させているため、DirectX等を使うゲームは起動できない。これまた非常に残念。

やはり、ゲームという視点ではXPの需要はまだまだあるように思う。



図.Windows 7 デスクトップ 及び エクスプローラー